

# Briefing Transcription

|| 2026年3月期 決算説明会文字起こし ||

## フルハシEPO株式会社

9221 東証スタンダード・名証メイン市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2026年6月3日(水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 冒頭のあいさつ	03
■ 決算説明	04
■ 質疑応答	17

## ■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント

- バイオマテリアル事業（木質バイオマスのリサイクル）は売上の7割を占める主力事業である。木質廃棄物から木材チップを生産し、紙パルプや木質繊維板等の原料、石油の代替となるバイオマスエネルギーとして有効活用を行っている。解体現場から発生した家屋の解体材や、物流現場等で使用されなくなった廃棄パレット等の木質廃棄物のリサイクルを受託し、同社の工場にて、木材チップに加工・製造を行うものである。

売上構成比で2割弱を占める資源循環事業（建設副産物のリサイクル）は、オリジナル分別コンテナ「F-con」の提供と独自の回収システムにより、「コスト削減」「現場美化」「再資源化率向上」を提案し、顧客のゼロ・エミッション推進をサポートしている。独自に開発した廃棄物情報管理システム「エリオット」は、廃棄物や収集運搬、リサイクル内容の情報を一元管理することにより、排出事業者からの依頼に迅速に対応することが可能となっている。「エリオット」は電子マニフェストシステム（JWNET）と連動しており、排出事業者の入力作業や手間を削減し、業務の効率化に貢献している。
- 2026年3月期連結業績は、売上高が前期比6.7%増の100.07億円、営業利益が同1.9%増の11.74億円、経常利益が同18.0%減11.74億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同13.8%減の8.90億円となった。売上高、営業利益は過去最高を更新した。着実な設備投資による成長基盤の構築と、収益構造の安定性・底堅さが改めて実証されたと言える。

部門別にみると、バイオマテリアル事業が量的拡大と付加価値化により売上高は前期7.1%増の73.36億円、営業利益が同3.1%減の10.57億円となった。資源循環事業は新規顧客獲得やインナーシェアアップ等により売上高は同6.8%増の16.99億円、営業利益は同24.4%増の0.89億円となった。その他事業は環境コンサルティングサービスの伸長により売上高は同0.7%増の13.14億円、前期損失を計上した営業利益は同0.35億円の黒字転換となった。

なお経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が減益となった要因は前期に営業外収益に計上した保険解約返戻金1.95億円の一巡によるものである。
- 2027年3月期連結業績の会社予想は、売上高が前期比8.1%増の108.23億円、営業利益が同9.6%増の12.87億円、経常利益が同6.9%増12.55億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同0.1%増の8.91億円を見込む。
- 2026年3月期業績を受けて2028年3月期を最終年度とする中期経営計画の見直しを行った。背景としては、当初の事業環境（建設費や物流費の上昇等）が変化し、工場設計や開設エリアの見直しの対応および工期の長期化等によって、新設工場の許認可取得時期に一部遅延が発生しているためである。中期経営計画の期間を2年延長し、最終年度の数値目標を見直すこととなった。新たな計画「Fuluhashi Sustainable Plan 2030」の定量目標は、最終年度2030年3月期の売上高140億円、営業利益25億円、営業利益率17%、ROE15%超、連結配当性向35%以上（累進配当）である。
- 持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、安定的・継続的な株主還元を実施する方針である。現中計期間は累進配当を基本とし、連結配当性向は35%以上を目安とする。また新たに株主優待制度を新設。対象の株主（所有株数200株（2単元）以上）に対し、初回基準日を2026年3月末日として、年間合計10,000円分のデジタルギフト®を進呈する。

## ■ 出演者

フルハシ E P O 株式会社  
代表取締役社長

山口 直彦様

司会者

フルハシEPO株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

## ■冒頭のあいさつ



2026年3月期  
決算説明会資料  
2026年5月22日

フルハシEPO株式会社  
東証スタンダード市場・名証メイン市場  
証券コード:9221

Create Sustainability for Our Future



### ■フルハシEPO 山口様

皆様、こんにちは。フルハシEPO株式会社、代表取締役社長の山口直彦でございます。本日はお忙しい中、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

株主や投資家の皆様方には、日頃より弊社の事業に対して多大なるご支援とご指導を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

それでは、お手元の資料に沿って弊社の業績および今後の取組みについてご説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

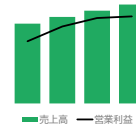
## 決算説明

### 業績ポイント



2026年3月期

売上高・営業利益 過去最高



中期経営計画 新規拠点展開

名古屋CEセンター新規稼働  
(2025年9月)

名古屋鳴海CEパーク稼働予定  
(2027年3月期上期)

株主還元(増配・累進配当)

2026年3月期  
年間配当 **30円**

2027年3月期  
年間配当 **32円**(予想)

1

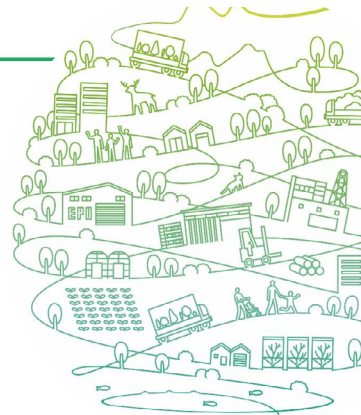
Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

まずは業績のポイントをご紹介します。2026年3月期は、売上高、営業利益ともに6期連続で過去最高を達成いたしました。

その下の拠点展開という項目にございますが、名古屋CEセンターが稼働いたしました。このCEはサーキュラーエコノミーを意味しております。さらに、今期の上期には、名古屋鳴海CEパークが稼働いたします。株主還元といたしましては、2026年3月期の年間配当は30円、2027年3月期の年間配当は32円を予想しております。2円の増配でございます。

### 目次

1. 会社紹介
2. 2026年3月期 業績
3. 2027年3月期 業績予想
4. 中期経営計画
5. 資本コストや株価を意識した経営
6. トピックス(株主還元)



2 Create Sustainability for Our Future

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続いて、本日の目次でございます。こちらの6項目について、順にご説明いたします。

フルハシEPO株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

1. 会社紹介  
会社概要



社名(由来)	フルハシEPO株式会社 (Eco, Environment+POrt=環境サービス・情報の集積・発信地)
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場・名古屋証券取引所メイン市場[証券コード9221]
本社所在地	名古屋市中区金山一丁目13番13号
経営理念	世のため 人のため 地球のため 社員のため 持続可能な社会を創造します
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バイオマテリアル事業(木質廃棄物の再資源化)</li> <li>● 資源循環事業(建設副産物の再資源化)</li> </ul>

設立	資本金	時価総額
1948年2月	15億781万円	約142億円 (2026年5月1日)
従業員	再資源化工場	関係会社
487名 (連結:2026年3月31日)	22ヶ所 (フルハシEPOグループ)	連結子会社 5社 持分法適用関連会社 2社

3

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

それでは、会社概要からご説明いたします。

設立は1948年であり、現在78年目を迎えております。間もなく社歴80年となる歴史がございます。本社は名古屋市中区にございます。資本金は15億781万円でございます。

再資源化工場は、グループ全体で全国22カ所に展開しております。

関係会社につきましては、連結子会社が国内に3社、海外に2社ございます。また、持分法適用関連会社が2社ございますが、この2社はいずれもバイオマス発電事業の関連会社でございます。

1. 会社紹介  
バイオマテリアル事業



4

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、主力のバイオマテリアル事業からご説明いたします。

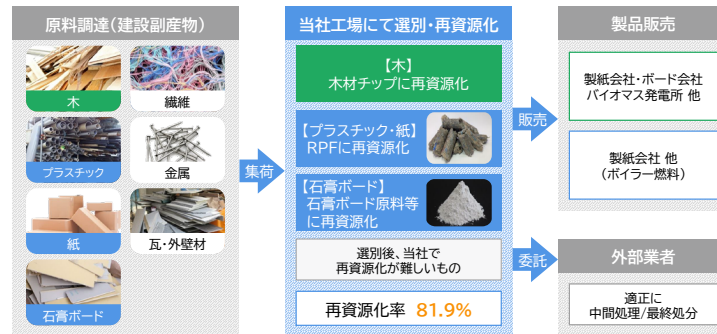
本事業は、左側の図にございますように、様々な木質廃棄物を、中央の写真にあります当社工場の各拠点にお客様が搬入されます。そして、こちらで製造および加工いたしまして、右側の製品としてバイオマス発電や紙パルプの原料チップとして納入するという事業でございます。

この事業の特徴は、入口においても、出口においても売上が発生し、仕入れが発生しない事業であることです。つまり、入口と出口の双方で売上が発生する「ダブルインカム」という非常に高収益なビジネスモデルとなっている点が、当社の大きな強みでございます。

フルハシ EPO 株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

1. 会社紹介  
資源循環事業



5

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、資源循環事業でございます。

こちらは、主に住宅の建設時に発生する様々な資材を対象としております。

木材、繊維、プラスチック、金属、紙・段ボール、石膏ボード等がございますが、これらは当社グループ企業が収集を行い、当社の各拠点で再資源化を行っております。再資源化率は81.9%であります。

そして、販売につきましては、右側でございますような様々な製品に加工いたします。例えば、石膏ボードであれば石膏ボードメーカーに原料として納入されます。また、木材は当社のバイオマテリアル拠点に搬送され、そこから製紙会社やバイオマス発電会社へ燃料・原料として供給されます。このような再資源化モデルでございます。

2. 2026年3月期 業績  
業績サマリー



売上高・営業利益とも過去最高を更新

売上高	EBITDA	売上高: 設立以来初の100億円を突破
10,007百万円 前期比: 6.7%増	1,929百万円 前期比: 9.5%増	当期純利益: 前期に計上した保険解約返戻金の反動により前期比では減少
営業利益	親会社株主に帰属する当期純利益	営業利益・EBITDA: 上場以来連続で過去最高を更新
1,174百万円 前期比: 1.9%増	890百万円 前期比: 13.8%減	

(注) 1. EBITDA=営業利益+減価償却費  
2. 2025年3月期は、営業外収益に保険解約返戻金195百万円を計上しております。

着実な設備投資による成長基盤の構築と、収益構造の安定性・底堅さが改めて実証された一年となった

6

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、業績サマリーでございます。

2026年3月期は、先ほど申し上げた通り、売上高、営業利益において6期連続で過去最高を更新いたしました。売上高は100億700万円、営業利益は11億7,400万円、当期純利益は8億9,000万円、EBITDAは19億2,900万円となっております。

着実な設備投資によって、成長基盤の構築と収益構造の安定性、底堅さが改めて実証された1年となりました。

フルハシEPO株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

2. 2026年3月期 業績  
損益計算書



売上高・営業利益とも過去最高を更新

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		
	実績	実績	前期比	構成比	予想
売上高	9,383	10,007	+6.7%	100.0%	10,322
売上総利益	4,295	4,430	+3.2%	44.3%	4,757
営業利益	1,152	1,174	+1.9%	11.7%	1,303
経常利益	1,432	1,174	△18.0%	11.7%	1,335
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,033	890	△13.8%	8.9%	905

(注) 2025年3月期は、営業外収益にて保険解約返戻金195百万円を計上しております。

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、損益計算書でございます。売上高は、先ほど申し上げた通り前期比6.7%増、営業利益は1.9%増となりました。これにより、売上高、営業利益とも過去最高を更新いたしました。

しかしながら、経常利益は前期比18.0%減、当期純利益は13.8%減となりました。この減益の理由につきましては、2025年3月期決算において、営業外収益として一過性の役員保険解約返戻金1億9,500万円を計上したためでございます。前期までで解約が完了しており、今期はその返戻金がございます。そのため、前期と比較して2026年3月期はマイナスという形になりましたが、今後はこの一過性の要因による影響もございませんので、これは一時的なものとご理解いただければと存じます。

2. 2026年3月期 業績  
セグメント売上高・利益(前期比)



- バイオマテリアル事業 量的拡大と付加価値化により売上高7.1%増
- 資源循環事業 新規顧客獲得やインナーシェアアップ等により売上高6.8%増
- その他事業 環境コンサルティングサービスの伸長により売上高0.7%増

(百万円)

	セグメント売上高			セグメント利益又は損失(△)		
	2025年3月期	2026年3月期	前期比	2025年3月期	2026年3月期	前期比
バイオマテリアル事業	6,848	7,336	+7.1%	1,090	1,057	△3.1%
資源循環事業	1,591	1,699	+6.8%	72	89	+24.4%
その他事業	1,305	1,314	+0.7%	△2	35	-
調整額	△361	△342	-	△7	△7	-
連結合計	9,383	10,007	+6.7%	1,152	1,174	+1.9%

(注) セグメント売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整しています。

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、セグメント別の売上高と利益でございます。

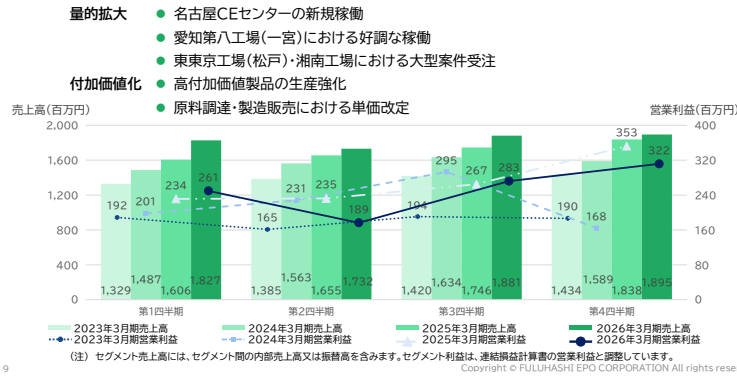
まず、一番上のバイオマテリアル事業でございますが、売上高は73億3,600万円となっており、この事業は当社グループの売上高の73%を占めております。利益は10億5,700万円であり、同様に当社の営業利益の90%を占めております。

次に、資源循環事業の売上高は16億9,900万円、売上比率は17%でございます。利益は8,900万円、利益の構成比率は7.5%となっております。

フルハシ EPO 株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

2. 2026年3月期 業績  
バイオマテリアル事業(四半期ごとの推移)



次に、バイオマテリアル事業の四半期ごとの流れをグラフにしております。

バイオマテリアル事業では、量的拡大という戦略に基づいて積極的な拠点展開を行っております。

同時に、製品の付加価値化に取り組ましました。

量的拡大といたしまして、2025年9月に名古屋CEセンターが稼働いたしました。

そして、一昨年、2024年10月に開設した愛知第八工場(一宮)が順調な稼働を続け、売上に大きく貢献をしております。

関東地区においては、東東京工場(松戸)と湘南工場において、非常に好調な入荷実績となり売上、利益が増加するという非常に活発な状況になっております。

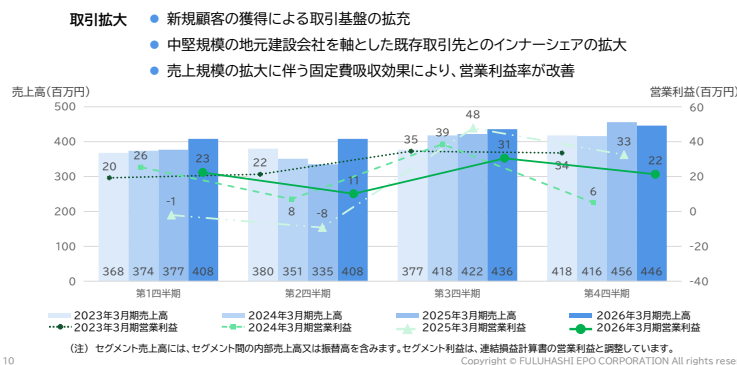
また、高付加価値化として原材料の選別強化を行いました。

それにより品質の向上に取り組み、高付加価値な製品の生産を増やしました。

加えて、単価改定を行いました。

製造原価ですとか運賃、こういったコストの上昇を背景に、市場において価格の改定を受け入れていただくことができました。それらが売上増につながっております。

2. 2026年3月期 業績  
資源循環事業(四半期ごとの推移)



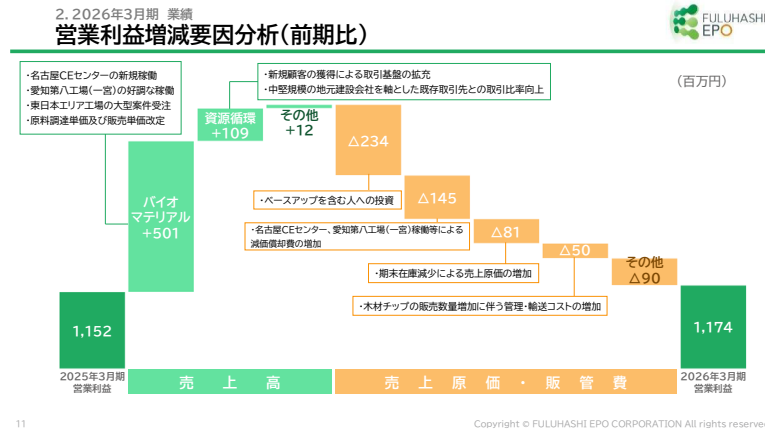
次に、資源循環事業の四半期ごとの推移でございます。

フルハシEPO株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

資源循環事業は、新規顧客の獲得、また既存顧客とのインナーシェアの拡大という形で、売上を伸ばしていくという形で進めております。

以上、簡単ですが、セグメント別の売上高と利益についてご説明いたしました。



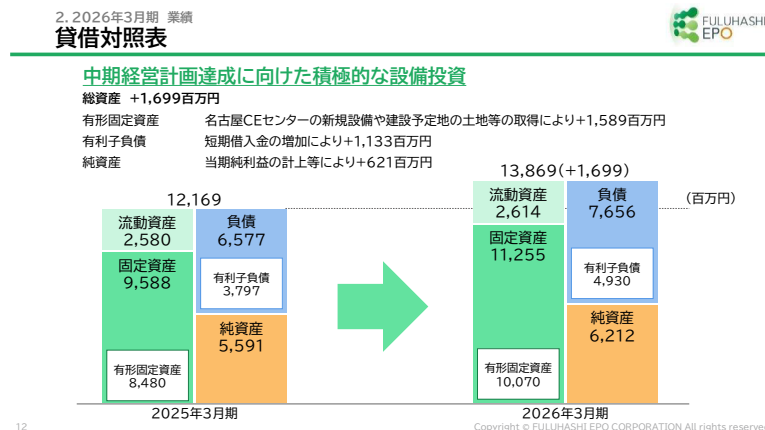
続いて、営業利益の増減要因についてご説明いたします。

2026年3月期の営業利益は11億7,400万円となりました。

主な増加要因といたしましては、バイオマテリアル事業の売上高が5億100万円増加したこと、および資源循環事業の売上高が1億900万円増加したことの2点でございます。

一方で、ベースアップを含む人への投資が2億3,400万円増加いたしました。また、新工場の稼働に伴う減価償却費が1億4,500万円増加しております。

以上の要因により、前期と比較して営業利益は2,200万円の増加となりました。



次に、貸借対照表になります。中期経営計画の達成に向けて、積極的に設備投資を実施しております。

これにより、総資産は16億9,900万円増加いたしました。主な内訳といたしましては、名古屋CEセンターの新規設備導入、および建設予定地の土地取得による増加でございます。これらに伴い、有形固定資産が15億8,900万円増加いたしました。

また、短期借入金が増加したことで、有利子負債は11億3,300万円の増加となっております。一方で、当期純利益の計上等により、純資産は6億2,100万円増加いたしました。

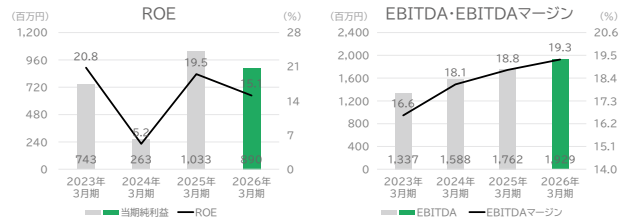
フルハシ EPO 株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

2. 2026年3月期 業績  
ROE・EBITDAの推移



- ROEは2025年3月期に保険解約返戻金を計上した反動により15.1%に低下
- EBITDAは積極的な設備投資拡大により1,929百万円に増加



(注) 1. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費  
2. 2025年3月期は、営業外収益に保険解約返戻金195百万円を計上しております。

13

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、ROE および EBITDA の推移でございます。

ROEは、2025年3月期に保険解約返戻金を計上した反動により低下したものの、15.1%と高水準を維持しております。また、積極的な設備投資の拡大により、EBITDAは19億2,900万円へと順調に増加しております。EBITDA マージンは継続して右肩上がり推移し、今期は19.3%に向上いたしました。製造業の一般的な目安である10%から15%を大きく上回っており、高い収益力を実現しているところでございます。

2. 2026年3月期 業績  
キャッシュ・フロー計算書



中期経営計画達成に向けた投資キャッシュ・フローのマイナス

- 営業キャッシュ・フローは税引等調整前当期純利益の計上によりプラス
- 投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出により大幅なマイナス
- 財務キャッシュ・フローは短期借入金増加によりプラス

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	主な要因
	実績	実績	
営業キャッシュ・フロー	1,319	1,503	純利益の計上
投資キャッシュ・フロー	△2,296	△1,935	有形固定資産の取得による支出
財務キャッシュ・フロー	△349	448	短期借入金の増加、長期借入金返済による支出
現金及び現金同等物の増減額	△1,320	17	
現金及び現金同等物の期末残高	992	1,009	

14

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、キャッシュ・フロー計算書でございます。

営業キャッシュ・フローは、純利益の計上等により15億300万円のプラスとなっております。

投資キャッシュ・フローにつきましては、中期経営計画の達成に向け、有形固定資産の取得を進めたため、19億3,500万円のマイナスとなっております。

財務キャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出もございましたが、短期借入金が増加したことにより、4億4,800万円のプラスとなっております。

以上により、当期末の現金及び現金同等物の残高は10億900万円となりました。

フルハシEPO株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

3. 2027年3月期 業績予想  
通期業績予想



売上高、売上総利益、営業利益は過去最高を更新予定

	2026年3月期		2027年3月期	
	実績	業績予想	増減額	増減率
売上高	10,007	10,823	816	+8.1%
売上総利益	4,430	4,741	311	+7.0%
営業利益	1,174	1,287	113	+9.6%
経常利益	1,174	1,255	81	+6.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	890	891	1	+0.1%

15

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

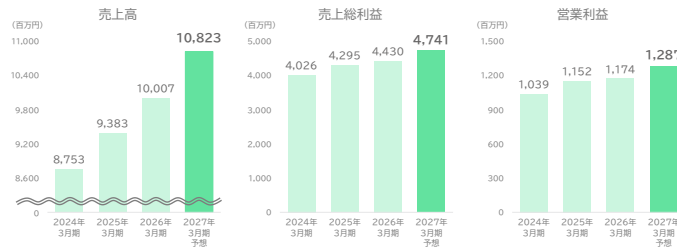
次に、通期業績予想でございます。2027年3月期の予想についてご説明いたします。今期におきましても、売上高、売上総利益、および営業利益ともに過去最高を更新する予想でございます。具体的な数値といたしましては、売上高は前期比8.1%増、営業利益は同9.6%増を見込んでおります。

3. 2027年3月期 業績予想  
通期業績予想(推移)



2027年3月期についても

売上高、売上総利益、営業利益は増収増益の業績予想



16

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、通期業績予想の推移をグラフで示しております。グラフをご覧の通り、順調に右肩上がりという形になっております。売上高、売上総利益、そして営業利益ともに右肩上がり、着実に業績が伸びております。また、通期業績予想の達成に向けましては、昨年9月に稼働いたしました名古屋CEセンターの本格稼働、そして名古屋鳴海CEパークが今期の上期に稼働予定でございますので、当社のサービスエリアがさらに拡大し、需要の拡大につながっていきます。

決算説明

4. 中期経営計画  
中期経営計画の見直し

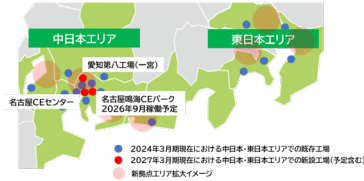


見直し背景

計画策定当初より、事業環境（建設費や物流費の上昇等）が変化し、工場設計や開設エリアの見直しの対応及び工期の長期化等によって、新設工場の許認可取得時期に一部遅延が発生しております。このような状況を踏まえ、中期経営計画の期間を2年延長し、最終年度の数値目標を見直しました。

【見直しの主な要因】

- ・計画段階：工事設計や開設エリアの見直しによる影響
- ・各種許認可手続き：事前協議・住民説明等による影響
- ・工期の長期化：工事人員不足、資材及び建材の納期による影響
- ・開設エリアの見直しによる売上計画の再考



中期経営計画の基本方針・戦略を堅持し、実現に向けて態勢の強化に取組む

17

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

さて、次に中期経営計画の見直しについてご説明いたします。

当社グループは、「Fuluhashi Sustainable Plan 80th」の実現のため、木質再資源化の量的拡大を事業戦略として掲げてまいりました。再資源化工場の新設および増設に取組み、2024年10月には愛知第八工場（一宮）を稼働、2025年9月には名古屋CEセンターを稼働させ、目標に向かって着実に進んでまいりました。

しかしながら、計画策定当初と比較して、建設費や物流費が大幅に上昇しております。

そのため、現在は工場建設の工期の長期化や、生産性および物流効率をより考慮した工場設計を行っております。また、物流コスト等を極力削減できるエリアへ展開する形で見直しを行いました。

当初計画しておりました新設工場の稼働時期に一部遅れを見込んでいることから、中期経営計画の期間を2年延長することといたしました。これに伴い、最終年度の数値目標を見直すことといたしました。最終年度の数値目標については、次のページでございます。

4. 中期経営計画  
中期経営計画見直しの定量目標



- ・目標の達成期間を2年延長、事業環境の変化に対応した目標の再設定
- ・持続的成長と株主還元の両立（累進配当の維持）

	Fuluhashi Sustainable Plan 80th (2025年3月期～2028年3月期)	【見直し後】 Fuluhashi Sustainable Plan 2030 (2025年3月期～2030年3月期)
売上高	150億円	140億円
営業利益	30億円	25億円
営業利益率	20%	17%
ROE	15%超	15%超
配当方針	連結配当性向 35%目標(累進配当)	連結配当性向 35%以上(累進配当)

18

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

見直し後の経営計画の定量目標についてご説明いたします。

売上高につきましては、当初計画の150億円から、今回の見直し後には140億円へと修正いたしました。営業利益につきましては、当初計画の30億円から25億円へと修正した結果、営業利益率は20%から17%へと修正しております。

決算説明

ROE（自己資本当期純利益率）につきましては、当初の15%超という目標を維持しております。  
また、配当方針におきましても、当初計画では連結配当性向35%を目標として掲げておりましたが、今回の見直しにより、35%以上を目安とした累進配当という計画へ見直しております。  
ちなみに、この累進配当におきましては、当社の上場後も継続して実施しております。2021年3月期以降、累進配当を継続しております。今後も累進配当は確実に継続できるものと見込んでおります。

4. 中期経営計画

中期経営計画の進捗状況

今期1ヶ所稼働予定、7ヶ所の新設計画が進行中

量的拡大の状況(2026年5月現在)

	工場数	工場新設実績及び予定
中日本エリア	7ヶ所増	●愛知第八工場(一宮)(2024年10月) ●名古屋CEセンター(2025年9月) ●名古屋鳴海CEパーク(2027年3月期上期予定) ●4ヶ所進行中
東日本エリア	3ヶ所増	●3ヶ所進行中



	目標設定時	成長準備	成長投資		成長加速
	2024年3月期(実績)	2025年3月期(実績)	2026年3月期(実績)	2027年3月期(予想)	2030年3月期(計画)
売上高	87.5億円	93.8億円	100.0億円	108.2億円	140億円
営業利益	10.3億円	11.5億円	11.7億円	12.8億円	25億円
営業利益率	11.9%	12.3%	11.7%	11.9%	17%
ROE	5.2%	19.5%	15.1%	—	15%超

19

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、中期経営計画の進捗状況でございます。

中期経営計画における量的拡大戦略の進捗といたしましては、先ほど申し上げた愛知第八工場（一宮）、および名古屋CEセンターの2カ所がすでに稼働済みとなっております。また今期は、名古屋鳴海CEパークの稼働を予定しております。こちらはすでに着実に工事が進んでおりますので、計画通り稼働するものと考えております。

今回の見直しによって、期間と定量目標を変更いたしました。中期経営計画「Fulhashi Sustainable Plan 2030」という形で当初計画の基本方針である量的拡大戦略は堅持し、これらの計画を着実に進めていくことで、引き続き目標の実現に向けて取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。

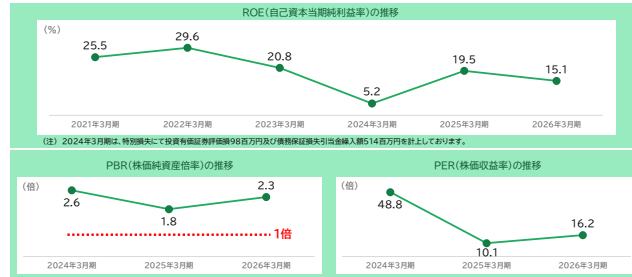
フルハシ EPO 株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

5. 資本コストや株価を意識した経営  
現状評価・分析



- 株主資本コストは6%～8%で推移し、ROE(2026年3月期 15.1%)はそれを十分に上回っていると認識
- PBRは、1.8倍～2.6倍の間で推移し、安定して1倍を上回る  
2026年3月期は2.3倍で、当社グループの成長性について、投資者から一定の評価と期待を得ていると認識



20

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状の評価と分析をご説明いたします。当社の株主資本コストは6%から8%で推移しております。これに対し、2026年3月期のROEは15.1%であり、資本コストを十分に上回っていると認識しております。また、PBR（株価純資産倍率）は1.8倍から2.6倍で推移し、安定して1倍を大きく上回っております。当社グループの成長性について、市場から一定の評価と期待をいただいていると認識しております。

一方で、2026年3月期のPER（株価収益率）は16.2倍となっており、当社といたしましては、まだまだ成長の余地があると考えております。

さらなる企業価値向上のため、次の取組みを進めております。

5. 資本コストや株価を意識した経営  
対応方針及び具体的な取組み



収益力強化と資本効率の最適化を軸としたROEの向上、情報開示・株主対話を強化し、持続的な企業価値向上を目指します

目標	指標の向上	対応方針	具体的な取組み
企業価値向上 長期ビジョンの実現	ROE ROE15%超 継続的マネジメント	収益力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>量的拡大による増収増益</li> <li>売上高の増加による管理コストの圧縮</li> <li>CO2削減に寄与する新たなサステナビリティ事業の創出（資源・エネルギー・食糧等）他</li> </ul>
		資本効率最適化	<ul style="list-style-type: none"> <li>最適な財務構成の構築</li> </ul>
	情報開示・ 株主対話	サステナビリティ マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループが取り組むべき6つの重要課題（マテリアリティ）と12の取組み事項を特定</li> <li>取組みの進捗を統合報告書等により報告</li> </ul>
		IR強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>決算説明会の継続的な開催（半期に1回開催）</li> <li>個人投資家向け説明会等への参加</li> <li>機関投資家との建設的会話（個別ミーティング）の強化</li> </ul>
		株主還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した配当を継続し連結配当性向35%以上目安</li> <li>中期経営計画期間における累進配当の実施</li> <li>2026年3月期末を初回基準とした株主優待制度を導入</li> </ul>

21

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

対応方針としまして、具体的な取組みを以下のように行ってまいります。

収益力の強化と資本効率の最適化による ROE の向上です。これに加え、情報開示や株主対応の強化によって投資家の皆様からの評価を高め、企業価値向上へとアプローチしてまいります。

具体的には、量的拡大や管理コストの圧縮等による収益力の強化、および最適な財務構成の構築を通じた資本効率の向上により、ROE15%超の継続的なマネジメントに努めてまいります。また、サステナビリティに関する取組み状況の開示や、個人投資家・機関投資家の皆様との対話の推進等、IR 活動の強化にも積極的に取り組んでまいります。

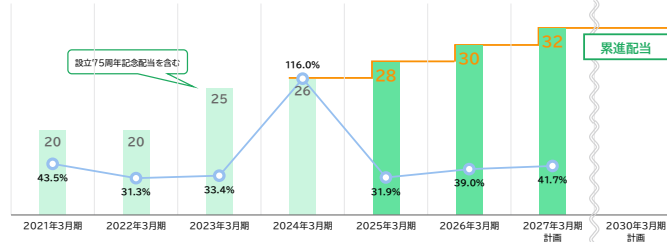
フルハシ EPO 株式会社 | 2026年6月3日(水)  
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

6. トピックス(株主還元)  
株主還元



持続的な成長と中長期的な企業価値向上のため、安定的・継続的な株主還元を実施  
現中計期間は累進配当を基本とし、連結配当性向は35%以上を目安とする



(注) 2023年4月1日付で普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行っております。  
上記グラフは2023年4月1日以前においても株式分割の効力を加味し1株当たり配当金を再計算しております。

22

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、株主還元についてご説明いたします。

2026年3月期の年間配当は30円、2027年3月期の年間配当は32円を計画しております。株主還元の基本方針といたしましては、利益の確保、適切な投資、そして健全な財務体質の維持に努めてまいります。現中期経営計画の期間である2030年3月期までは、累進配当を基本として進めてまいります。同時に、成長投資を継続しながら、連結配当性向は35%以上を目安としてまいります。

6. トピックス(株主還元)

株主総数推移と株主還元費用の水準



株主優待制度を新設。対象の株主様に対し、初回基準日を2026年3月末日として、年間合計10,000円分のデジタルギフト®を進呈。

時期	毎年3月末日	毎年9月末日
優待内容	デジタルギフト®5,000円分	デジタルギフト®5,000円分
所有株式数	200株(2単元)以上	200株(2単元)以上

(注) デジタルギフト®は、株式会社デジタルプラスの登録商標であります。

増配及び優待新設により  
株主総数は2026年3月末日に  
約7,000名にまで増加

2027年3月期の株主還元費用は  
441百万円を見込むが、  
導入決定時の想定範囲内  
2027年3月期当期純利益(予想)に  
対する割合は50%程度であり、  
持続可能な水準

$$\frac{\text{2027年3月期予想株主還元費用 } 441 \text{ 百万円}}{\text{2027年3月期予想親会社株主に帰属する当期純利益 } 891 \text{ 百万円}} = 49.5\%$$

23

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

また、2026年3月期を初回基準日とした株主優待制度を新設いたしました。この増配および株主優待制度の新設により、2026年3月末時点における株主総数は2025年3月期と比較して約4倍となり、現在は7,000名以上の株主の皆様にご投資をいただいております。

2027年3月期の株主還元費用は4億4,100万円を見込んでおりますが、これは制度導入決定時の想定範囲内でございます。2027年3月期の当期純利益予想に対する割合は50%程度であり、持続可能な水準であると認識しております。

以上、株主還元についてご説明いたしました。

## 決算説明



24

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

以上、簡単ではございますが、3月期の決算についてご説明いたしました。

当社におきましては、この木質バイオマスを日本独自の資源として、余すことなく使い尽くしていこうと考えております。「植林からエネルギーまで」という形で、純国産の資源・エネルギーを大いに活用し、持続可能な社会の実現に貢献してまいりたいと考えております。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。本日は決算説明会をご清聴いただき、誠にありがとうございました。

## 本資料の取り扱いについて



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等の特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認されたうえで、ご利用ください。
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】  
フルハシEPO株式会社 総務部  
Mail: 9221epo-ir@fuluhashi.co.jp

25

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

## 質疑応答

### ▲司会者

これより質疑応答に移ります。

ご質問がある方は、Q&A欄に会社名とお名前を記載のうえ、ご送信ください。なお、時間の都合上、すべてのご質問にお答えできない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

それでは、Q&Aに寄せられたご質問をご紹介します。

「主力のバイオマテリアル事業が増収にもかかわらず、唯一の減益セグメントとなっています。増収減益となった原因を説明してください」とのご質問をいただきました。お願いいたします。

### ■フルハシEPO 山口様

増収であるにもかかわらず、なぜ減益しているのかというご指摘をいただきました。

前期(2026年3月期)は、名古屋CEセンター、2025年3月期は愛知第八工場(一宮)といった新設工場が順調に稼働いたしました。また、先ほどのご説明でも述べましたように、東東京工場(松戸)や湘南工場につきましても、非常に順調かつ活発な稼働をしております。

しかしながら、これら新たな拠点開発等に伴う減価償却費の増加に加え、労務費に関しましては、当社は賃上げおよびベースアップを過去3年平均で5%以上行ってまいりました。これらが売上原価の増加につながったことが主な要因でございます。

この新規稼働に伴う償却費等の一時的なコスト増加につきましては、今後のさらなる増産において十分に吸収していけるものと考えております。どうぞよろしくをお願いいたします。

### ▲司会者

続いてのご質問です。

「見直し後の中期経営計画をどのように達成するのか、ロードマップを教えてください」とのご質問です。お願いいたします。

### ■フルハシEPO 山口様

中期経営計画を修正させていただきましたので、皆様のご期待に今後ともお応えできるよう、努力していく所存でございます。

この中期経営計画の中で、事業環境の変化といたしましては、先ほども一部述べさせていただきましたが、建設資材の高騰、物流コストの上昇、また人件費につきましては、賃金の上昇が進んでおり、我々も賃上げを行っております。こういった状況下においても、バイオマテリアル事業における量的拡大は、今後も積極的に継続してまいります。

一方で、新工場の許認可の取得におきましては、例えば当社が直近で稼働させております名古屋CEセンターや愛知第八工場(一宮)といったところの、用地の取得から稼働までに要する年数が長期化しております。

こういった背景を踏まえ、従来の期間で稼働まで持つていくという計画に対し、稼働までに若干の時間が必要となっていることから、今回の計画の見直しをさせていただくことになりました。どうぞよろしくをお願いいたします。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「過去最高の原動力はどこでしょうか」とのご質問です。お願いいたします。

## ■フルハシEPO 山口様

はい。過去最高の売上、営業利益ということでもよろしいでしょうか。こちらは、現在進めております「量的拡大」という戦略が原動力となっております。サービスエリアの拡大と、そのための拠点開発を積極的に行うことで、廃材の受け入れ量および製品の生産量がアップしてまいります。こうした拠点展開が順調に進んでいるという点が、大きな増収につながっております。

また、営業利益につきましても過去最高を計上しておりますが、経常利益、当期純利益に関しましては、先ほどご説明いたしましたように一時的な要因により前期比でマイナスとなりました。しかし、これはあくまで一時的なものですので、今期も含めまして、今後はこの増収増益の基調が維持できると考えていただいております。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「成長戦略として活動範囲を拡大される予定があれば教えていただけますか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

成長戦略としての活動範囲というのは、エリアのこととしてお答えさせていただいてよろしいでしょうか。エリアに関しましては現在も進めているところでございますが、サービスエリアを広げ、それに伴う拠点を展開していくという形で、今後も順次エリアの拡大を行ってまいります。

サービスエリアの拡大による拠点の増加は、1拠点あたり数億円の売上増につながっております。そのため、この拠点展開を今後とも積極的に継続してまいります。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「社名、EPOのご説明をお願いします」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

フルハシEPOと申しまして、「フルハシ」という創業者の苗字に、「EPO」という名前が付いているような形でございます。

この「EPO」の「E」は、エンバイロメント（Environment:環境）や、エコ（Eco）の頭文字から取っており、環境という意味合いを持っております。

「PO」に関しましては、エアポート（Airport:空港）やシーポート（Seaport:港）の「ポート」、いわゆる「港」や「ハブ」を意味しております。環境のハブとなり、情報の集積や発信、また、ものの集積や出荷を行う「入口と出口」になることを目指して、この「EPO」という名前を付け、苗字と組み合わせしております。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「同業のライバル会社を教えてください」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

私どもが展開しているこの「木質再資源化」に特化し、上場している企業としては、実は私ども1社だけでございます。

総合的な建設廃材等の再資源化を行っている上場企業としては、TREホールディングス様（旧タケエイ様、リバーホールディングス様）や大栄環境様、また、廃油や汚泥等の再資源化においてはダイセキ様といった大手企業様がいらっしゃいます。

しかしながら、木質再資源化をメインとした上場企業は唯一当社だけでございますので、この独自のポジションを積極的に活用し、今後も強みとして事業展開を進めていきたいと考えております。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「貴社のビジネスモデルの強みとはどのようなことですか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

先ほどのご説明の中でも少し触れましたが、私どもの主力事業であるバイオマテリアル事業は、木質廃棄物の再資源化事業でございます。

通常の製造業ですと、原材料を仕入れて加工・生産し、それを販売するという形で、ものの流れとお金の流れが一方通行になります。しかし、当社のバイオマテリアル事業は、入口と出口の双方で売上が発生する仕組みとなっております。

具体的には、原材料が当社の工場に入荷される段階で、処理費用として「処理売上」が発生します。そして、工場生産された製品は、バイオマス発電所の燃料チップや、紙パルプ、木質繊維板の原料となり「製品売上」が発生します。このように入口と出口の両方で売上が上がるビジネスモデルであり、さらに再資源化率は100%で無駄が全くありません。非常に効率的かつ有効な事業であると考えております。

また、この事業の重要なポイントは、入口における「安定的な原材料の調達・集荷」と、出口における「安定的な販売市場の確保」、この2点を両立させていることです。どちらか一方が欠けても安定供給はできませんし、安定供給ができなければ、商品としての価値や価格を維持することが難しくなります。

その点において、当社は業界最大級の調達量と生産量を誇り、広範なエリアで事業を展開しております。この強固なネットワークとスケールメリットこそが、当社のビジネスモデルにおける最大の強みでございます。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「中東情勢の影響の程度についてはいかがでしょうか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

昨今、中東情勢やホルムズ海峡をめぐる地政学的な要因等によって、さまざまな事業に影響が出ております。しかしながら当社におきましては、原材料となる木材や建設系の副産物はすべて国内で発生するものでございます。また、当社が生産・製造して販売する先につきましても国内で完結しているため、直接的な影響はございません。

一方で、電力費や輸送費の上昇、あるいは原油価格の上昇に伴う間接的な影響はございますが、業績全体に与える影響としては比較的軽微であると考えていただいてよろしいかと思ます。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「若手の採用と成長をどのようにされていきますか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

私どもが展開しているこの「環境」という事業は、特に若い方々から非常に高い注目をいただいている分野でございます。

当社では毎年、新卒採用を行っておりますが、過去3年間における定着率はほぼ100%となっており、若い社員の定着も非常に順調に進んでおります。今後もリクルート活動は積極的に展開していく方針です。また、現在の量的拡大戦略にともない、売上や事業エリアが大幅に拡大しておりますので、積極的な若手の採用に加え、即戦力となる中堅社員の中途採用もあわせて進めていく所存でございます。

育成に関しましては、さまざまなプログラムや手法を用いて研修等を行っております。今後ともいろいろとご指導をいただけますと幸いです。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「売上高ですが、来期108億の目標ですが、その根拠を教えてください」とのご質問をいただきました。お願いいたします。

## ■フルハシEPO 山口様

来期、2027年3月期の業績予想は売上高108億円としております。前期になりますが、名古屋市の中心部にほど近いところに名古屋CEセンターを設立いたしました。非常に大きな生産を期待しておりますし、それができるエリアでございます。

その前に稼働しました愛知第八工場（一宮）、こちらでもフル稼働に近づいております。

さらに、間もなく稼働します名古屋鳴海CEパーク、こちらでも下期の売上増加が見込める拠点でございます。

加えて、関東エリアにおいても積極的な営業を行っております。以上のような量的拡大を確実に行うことより達成する見込みでございます。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「前期からの株主優待はこれからも続けていきますか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

はい、株主優待に関しましては、今後も継続してまいります。

また、株主の皆様へ還元する方針として、連結配当性向35%以上という目安を掲げて進めてまいります。このように株主の皆様にご支持いただけるような結果を出せる経営を今後も行ってまいりますので、ご安心いただいてよろしいかと思ます。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「株主優待の権利付与基準日は3月末だけですか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

株主優待に関しましては、3月末日と9月末日を基準日としております。当社は中間配当を行っておりまして、年間2回の配当でございますが、この株主優待につきましても同様に、3月末日と9月末日に基準となる株式数を所有されている株主の皆様に対して行ってまいります。権利付与は年2回ございます。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「国の環境政策や法規制によって業績に影響はないのでしょうか。また、それに対応すべき対策は考えているのか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

国の環境政策による影響はないか、というご質問でございます。もちろん、国の環境政策とは非常に密接に関連をしております。

例えば、CO<sub>2</sub>削減に関して、国の政策に則って積極的に進めております。このCO<sub>2</sub>の削減は、私どもの（燃料を供給している）バイオマス発電所が新エネルギーという形で、CO<sub>2</sub>のカーボンニュートラルを実現しておりますので、これらも国の政策に則った事業でございます。そのようなご理解いただきたいと思います。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「今後1番力を入れたいと思っている分野は何ですか」とのご質問をいただきました。

## ■フルハシEPO 山口様

ありがとうございます。力を入れたい事業につきましては、現在、このバイオマテリアル事業において量的拡大を行っているわけでございます。

量的拡大は言葉の通りでございますが、実は日本において資源が潤沢にあるものの1つが、この木材でございます。日本の資源を見ますと、鉱物であれば石灰石、あるいは食料であればお米等は自給率が非常に高いのですが、多くの資源は自給率が非常に低く、大半を海外に依存しているのが現状でございます。その中で、この木材は自給ができる非常に貴重な資源として、現在、量的拡大を行っております。そして、将来的にはさらにこれを「質的拡大」へと進めたいという目標を描いております。

今後はそういった点も積極的に研究開発を進めていく所存でございます。純国産エネルギー、純国産資源を増産していくということが当社の目指す姿でございますので、そうした点に積極的に力を入れていきたいと考えております。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「東海地区を基盤にされていますが、ほかの地域へ拡大、あるいは海外への進出について教えてください」とのご質問です。お願いいたします。

## ■フルハシEPO 山口様

東海地区が基盤という点と、あと海外への進出というご質問でございます。

もちろん、関東地区も積極的な展開を行っておりまして、現在5か所に拠点がございます。今後につきましては、用地の確保を関東エリアに集中して展開していくとともに、関西エリアも含め、一定の発生量のあるエリアをカバーしていくという形で、この量的拡大を進めております。

さらに海外につきましては、基本的に「資源循環社会を創造していく」「使い捨てではなく、限られた資源を有効に活用していく」という点においては、国内も海外も同様ではないかと考えております。

この資源循環というものは地球環境に貢献できる事業だと考えておりますので、国内・海外というところに分け隔てなく展開していきたいと考えております。

## 質疑応答

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「円安、円高は利益にどのように関係しますか」とのご質問をいただきました。

## ■フルハシEPO 山口様

円安、円高の影響という点に関しましては、よく「1円円高になるとどれだけ損失が出る」「1円円安になるとどれだけ利益が出る」というように、企業の業績によってそういった数字に大きな影響があるかと思えます。それに対しまして、私どもは度々お話ししておりますように、原材料を国内で調達し、市場も国内ということで、純国産資源・純国産エネルギーという形でこの循環を行っております。

しかしながら、この木質バイオマスに関しましては国産の原燃料のみならず、一部「PKS」という、これはアブラヤシの種殻（パームカーネルシェル）のことでございますが、海外から輸入しているものもございます。一部、私どもが関連するバイオマス発電所でも活用しておりますので、そういった点では輸入が主体になりますので、円安はマイナスに働くということがございます。

## ▲司会者

続いてのご質問です。

「バイオマス発電の将来性についてどのようにお考えですか」とのご質問です。

## ■フルハシEPO 山口様

私どもの製品である燃料チップ（木材チップ）は、現在、生産しているものの70%強が燃料として活用されております。

燃料としての活用先には、バイオマス発電所とバイオマスボイラー（蒸気を作る際に木材チップを燃料として使うもの）といった用途がございますが、特に大きな指標となるバイオマス発電へ向けて私どもも供給を行っており、非常に期待を持って事業を展開しております。

具体的に申しますと、FIT（固定価格買取制度）において、私どもの生産した木質バイオマス燃料で発電した電力の買取価格は1kWhあたり13円となっております。これは比較的安価な電力です。かつて太陽光発電等で40円や42円といった非常に高価な金額で再生可能エネルギーを購入していた時代がございましたが、それらに比べると非常に安価にエネルギーを作ることができます。

そのみならず、24時間安定して電力供給ができるというのがバイオマス発電の最大の強みです。天候等の自然条件にまったく左右されない、ある意味で「ベースロード電源」になり得る電力ですので、私どもは今後もこの事業へ積極的に展開していきたいと考えております。

## ▲司会者

ありがとうございました。それでは質疑応答を終了いたします。以上をもちまして、フルハシEPO株式会社決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp